

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

| | |
|--------------------------|----|
| 学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要） | 1 |
| 1. 教育学部、教育学研究科 | 3 |
| 2. 地域科学部、地域科学研究科 | 5 |
| 3. 医学部、医学系研究科 | 7 |
| 4. 工学部、工学研究科 | 9 |
| 5. 応用生物科学部、共同獣医学研究科 | 11 |
| 6. 自然科学技術研究科 | 13 |
| 7. 連合農学研究科 | 15 |
| 8. 連合創薬医療情報研究科 | 17 |

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

| 学部・研究科等 | 研究活動の状況 | | 研究成果の状況 | |
|------------------|---------|---------|---------|---------|
| | 【2】 | 相応の質にある | 【2】 | 相応の質にある |
| 教育学部、教育学研究科 | 【2】 | 相応の質にある | 【2】 | 相応の質にある |
| 地域科学部、地域科学研究科 | 【2】 | 相応の質にある | 【2】 | 相応の質にある |
| 医学部、医学系研究科 | 【2】 | 相応の質にある | 【2】 | 相応の質にある |
| 工学部、工学研究科 | 【2】 | 相応の質にある | 【2】 | 相応の質にある |
| 応用生物科学部、共同獣医学研究科 | 【2】 | 相応の質にある | 【2】 | 相応の質にある |
| 自然科学技術研究科 | 【2】 | 相応の質にある | 【2】 | 相応の質にある |
| 連合農学研究科 | 【2】 | 相応の質にある | 【2】 | 相応の質にある |
| 連合創薬医療情報研究科 | 【2】 | 相応の質にある | 【3】 | 高い質にある |

1. 教育学部、教育学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 4)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 羽島市と民間企業との学力向上のための連携協力に関する協定（平成 29 年 8 月締結）を基盤として、文部科学省「学力向上のための基盤づくりに関する調査研究」に採択（全国で 4 件）され、三者で推進協議会を設置し習熟度に基づく学習プリントを活用した補充学習による「自律的で適応的な学習」に取り組んでいる。推進協議会は 12 回開催し、調査結果を中心とした経過を教育学部附属学習協創開発研究センターの Project Report No.8 として報告した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、2 件、1 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

2. 地域科学部、地域科学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 6)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 6)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 岐阜市のこれまでの歩みを振り返り、市民が地域に対する理解を深め、郷土愛を醸成する基盤とし、さらなる市民との協働のまちづくりと文化の向上に資するために、昭和50年から約40年間の市史を編さんした『岐阜市史現代編Ⅱ』（令和元年）において、岐阜市史編さんに関する専門的な事項についての調査及び審議を担当する「岐阜市史編さん専門委員会」の委員長や委員として地域科学部教員が、「地域のくらしと経済」、「市民主役のまちづくり」等を主題に、柳ヶ瀬の浮き沈みやまちづくりの移り変わりの調査を実施するなど中心的な役割を果たした。また、執筆に関しても地域科学部の教員7名が参加し、編さん専門委員会の委員長の他、まちづくり、経済、農業、環境について分担執筆した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、1件、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

3. 医学部、医学系研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 8)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 8)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 公衆衛生上の脅威である多剤耐性細菌感染症の治療として、細菌の天敵を用いた「ファージセラピー」に注目し、ファージセラピーに応用できる人工ファージの研究を進め、製薬企業から多額（3年間で264,970千円）の共同研究経費を得て、この研究を基盤にした医学部初の共同研究講座「ファージバイオロジクス研究講座」を令和2年3月に設置することとなった。
- 平成29年度には、トランスレーショナルリサーチ等の研究活性を推進することを目的として、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の予算を受託研究費として4件、合計59,262,651円を獲得した。
- 文部科学省から、令和2年度に国内初となる医療者教育学専攻（修士課程）を設置することが認められたことにより、グローバルな視野とローカルな視点から医療の質向上に寄与する医療者教育を展開するため、多様な医療者教育の専門家となるリーダーを育成し、高い能力を有する医療者の教育課程を充実させていき、地域医療に貢献する人材の育成を図っていくこととなった。
- 平成13年から医学教育分野で初の全国共同利用施設として医学教育開発研究センター（MEDC）を立ち上げ、全国の教員・指導医に対し、教育に関する学識・スキルを高める取組を進めており、その医療者教育に関する実績が、国内初となる医療者教育学専攻（修士課程）設置につながった（令和2年度4月開始）。今後も医療者教育分野をリードし、全国の医療系の指導者のレベルアップを推進していく。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、8件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

4. 工学部、工学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 10)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 10)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 民間企業（社会人博士課程生）と「アプリ減災教室」を共同開発し、「第19回国土技術開発賞（国土技術研究センター）」において「創意開発技術賞（国土交通大臣表彰）」を受賞した。本アプリは、これまで講座や訓練の機会のみにとどまっていた防災活動をより身近にし、多くの人に防災・減災に関心を持ってもらうことができるものである（令和2年3月31日現在の利用実績14,784件）。

〔特色ある点〕

- インフラの老朽化や維持管理が社会的な課題となる中、学生やインフラの維持管理に関わる技術者の育成に役立てるため、橋やトンネルなどの複数の基本構造物の実物大モデルを見ながら学ぶことができる「インフラミュージアム」を平成29年8月に大学構内に設置した。大学院生の課題学習での利用以外にも、実際の大きさや質感を身近で安全に観察できるため、国土交通省、地方公共団体及び建設関連企業の研修として、毎年度多くの利用があり、地域の技術者育成に寄与している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、8件、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

5. 応用生物科学部、共同獣医学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 12)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 12)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 平成 19 年に糖質科学をテーマとする文部科学省・世界トップレベル国際研究拠点形成推進プログラム「物質-細胞統合システム拠点 iCeMS」（京都大学）のサテライト機関として 10 年間の研究活動を継続してきたが、これを基軸として平成 28 年 10 月より「生命の鎖統合研究センター（G-CHAIN）」を学内予算で立ち上げた。G-CHAIN は、医・薬・獣が同一キャンパス内にある岐阜大学の強みを生かし、応用生物科学部のみならず工学部などの生命科学系の研究者も含め、学内の秀でた研究者を学長のリーダーシップのもとトップダウンで融合した生命科学の研究拠点である。応用生物科学部から、つくる領域に 5 名、ひも解く領域に 1 名、活かす領域に 5 名が参画している。このうち 6 名（ひも解く領域 1 名、活かす領域 5 名）は共同獣医学研究科の所属である。
- 岐阜県中央家畜保健衛生所及び同食品科学研究所が、それぞれ平成 29 年度及び令和元年度に岐阜大学の敷地内に応用生物科学部に隣接する形で設置され、協力して研究を展開している。これにより地域活性化につながる研究を推進する体制が整備された。応用生物科学部のこれまでの研究活動に対する地域社会からの評価と捉えることができる。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、8 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

6. 自然科学技術研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 14)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 14)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、14件、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

7. 連合農学研究科

- (分析項目Ⅰ 研究活動の状況 16)
- (分析項目Ⅱ 研究成果の状況 16)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 第2期中期目標期間中に連携協定を締結した産業技術総合研究所（以下、産総研）及び静岡県試験研究機関に加え、第3期中期目標期間内において、農業・食品産業技術総合研究機構（平成28年度以下、農研機構）、高エネルギー加速器研究機構（平成28年度）、及び森林研究・整備機構森林総合研究所（平成29年度）との協定締結が実現し、農学系のほぼ全ての領域に関する研究機関との連携が可能となった。公設研究機関との連携による研究者を客員教員として受入れることで研究指導力が向上し、農学系すべての領域における研究者育成が可能となった。連携機関の客員教員の学生受持数は産総研では平成29年度2名から令和元年度6名へ、農研機構では平成29年度3名から令和元年度8名へ増加し、連携機関との関係が強化されている。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、10件、1件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

8. 連合創薬医療情報研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 18)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 19)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 工学部、医学系研究科及び岐阜薬科大学の教員で構成されているが、同一キャンパス内にすべての学部、研究科が設置されている特色を有している大学において、横断的な創薬・医療情報に関する教育研究の推進を目指し、平成30年度以降、創薬・医療情報に携わる学内の教員を集約すべく、以下の取組を実施した。①生命科学に関連する先進的分野の教育研究を行うとともに放射性同位元素、実験動物、大型分析機器等の適切な管理を行うことにより、大学における生命科学分野の教育研究の総合的推進を図ることを目的とする研究推進・社会連携機構科学研究基盤センターの教員（助教）2名を併任した。②医療情報に基づく画像解析を研究テーマとし、かつ令和元年度学内に設置された人工知能研究推進センターの構成員でもある教育学部の教員（准教授）1名を併任とし、研究体制を充実させた。③岐阜大学は同一キャンパス内に医学・薬学（岐阜薬科大学）・工学・獣医学が設置されているという国内では極めて稀な創薬・医療情報に関する研究環境を有しており、中でも獣医学科は中部7県下では岐阜大学のみを設置されているという特徴を有している。その獣医学科は平成31年4月に鳥取大学との共同で共同獣医学研究科（博士課程）を設置し、創薬教育プログラムとして連合創薬医療情報研究科が提供する「創薬人材育成教育プログラム」を採用している。また学位審査体制を一部共通化するなども審議段階であり、さらなる研究交流を図ってきた。
- 外部資金を伴う研究環境充実戦略として、平成30年4月に、分子腫瘍学・補完医療に関する寄附講座を設置し、RNA創薬分野における特任教授1名、薬学分野の特任准教授（パート）1名、獣医学分野の特任助教1名を確保し、研究体制を維持した。さらに令和元年8月には、発酵食品の生理活性に関する共同研究講座（出資企業のニーズと合致する研究テーマの選定のもと、知的財産が出資企業に帰属できる「組織」対「組織」による新しい産学連携のスキーム）を設置し、県内企業との共同研究体制を整え、特任准教授1名を確保した。このような研究体制の整備・強化により、第3期中期目標期間における共同研究の受入実績は、年々増加し令和元年度には単年度に受入実績において、研究科設置以降最高額を記録した。

- 平成 29 年 9 月に国立長寿医療研究センター及び岐阜県保健環境研究所と、平成 31 年 1 月に国立病院機構長良医療センターと、令和元年 5 月に民間企業と協定を締結したことで第 3 期中期目標期間の 4 年間において協定数を大きく増加させ、計 9 つの機関と連携した教育研究活動を推進している。また、令和元年 8 月に県内企業と共同研究講座を設置し、地元企業との連携を強化している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、2 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「多成分分子系からなる分子集合型ナノ構造体材料の創製に関する研究」は、学術的に卓越している研究業績である。